



## 「救え！シナイモツゴ又八沼水抜きプロジェクト」が実施されました！

シナイモツゴは全長8cm程度のコイ科の淡水魚で、東北地方や信越地方の溜池などに生息しています。青森市内では、又八沼などに生息が確認されており、「又八沼に生息するシナイモツゴ」として平成12年10月に市の天然記念物として指定されています。しかし、近年又八沼において、関東以西を中心に生息する「モツゴ」が混入していることが明らかになりました。モツゴは、繁殖力が非常に強く、シナイモツゴの生息地に混入すると、シナイモツゴの繁殖を阻害することが知られており、シナイモツゴを絶滅させる恐れがあります。

このため、令和5年度には、貴重な文化財であるシナイモツゴの生息環境の改善を図ることを目的としたプロジェクトが、弘前大学名誉教授の佐原雄二氏を中心に実施されました。具体的には、沼に生息する魚類を捕獲するため、8月19日に又八沼の水抜きをし、捕獲したシナイモツゴとモツゴを分別する作業などが行われました。

また、この日は捕獲したモツゴを食材等に利活用した環境学習も行われました。その後、又八沼の水位の回復を待ち、11月11日に、捕獲したシナイモツゴが又八沼に放流されました。



捕獲したシナイモツゴ

## 世界遺産登録2周年記念イベントを開催！

小牧野遺跡を構成資産に含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」が令和3年7月27日の登録決定から2周年を迎えたことを記念し、令和5年7月30日に縄文の学び舎・小牧野館において世界遺産登録2周年記念「こまきの縄文まつり」を開催しました。

小牧野遺跡の価値を多くの方々に知っていただくため、当日は、縄文時代や小牧野遺跡にちなんだワークショップのほか、青森南高校による縄文ブースでは、土器作りや縄文鍋の試食が行われました。



ワークショップの様子

## 「考古学教室 縄文時代の赤色顔料」を開催！

令和5年11月5日、「考古学教室縄文時代の赤色顔料」を縄文の学び舎・小牧野館において開催しました。

当日は、縄文時代の赤色顔料をテーマとした講座と体験の二本立てにより行い、赤色顔料の生産方法を講座で学んだ後に、漆造形家の伊良原満美先生を講師に赤漆を使った糸玉づくりを参加者に体験してもらいました。



考古学教室の様子

## 遺跡を大切に

青森市内では、現在までに430カ所以上の遺跡が見つかっています。遺跡は、地下に埋もれているため、現在確認されていない場所でも新たに遺跡が発見されることがあります。

住宅等の建築や、地面を掘削するような工事を行う場合には、計画の早い段階で計画地における遺跡の有無について照会してください。

【問合せ】 青森市教育委員会事務局文化遺産課

青森市大字野沢字沢部108-3 縄文の学び舎・小牧野館2階 TEL017-718-1392 FAX017-718-1394